

平成28年度鳥取県高等学校学校保健研究協議会東部支部学校保健研究協議会
アドバイザー派遣事業実施レポート

1 研究会 鳥取県高等学校学校保健研究協議会東部支部学校保健研究協議会

2 研究テーマ 「組織活動を意識した保健室経営を考える」

3 日 時 【第1回】平成28年7月27日（水）

午前10時30分～午後4時30分

【第2回】平成28年12月26日（月）

午後1時30分～午後4時30分

4 場 所 国府町コミュニティーセンター

5 講 師 荊尾玲子氏（前島根県安来市立母里小学校長）

（安来市教育委員会学校教育課指導主事）

6 内 容

【第1回】

- 実践報告：保健室経営計画を見ながら各校の1学期の実践内容を発表

<発表のポイント>

組織活動を意識して1学期に実践した具体的方策と、具体的方策の自己評価及び他者評価について

- 講義 「組織活動を意識した保健室経営計画」

講師 荊尾玲子氏

- ・ 保健室経営計画を周知することで、子どもたちをどう育てたいのかを言葉で表す。目で見てわかる計画にする。
- ・ 学校全体で何をするのかが分かる計画にすることが大切である。
- ・ 評価の観点は目標に対する評価も入れる。生活改善の意識が高まっているかという観点も大切である。
- ・ 養護教諭のした仕事は自分のものではない。学校全体の視点で保健室経営をすること。
- ・ 管理職と状況の共有をすること。
- ・ 「直そうとするな。分かろうとせよ。言葉尻を捕まえるな。感情を掴め。」

- グループワーク

<テーマ>

2学期に「組織活動を意識した保健室経営計画」を実践するために、困っていることや悩んでいることについてグループワークでアドバイスをもらおう。

- 指導助言

- ・ 子どもの問題を学校教育の課題として、専門性を生かした新たな教育を創造しよう。
- ・ 保健室の機能や養護教諭の職務を発揮した活動を、できることから始めよう。

【第2回】

○ 講演「組織的に機能する保健室経営」

講師 荊尾玲子氏

- ・ 健康課題を学校課題として取り組み、評価する。
- ・ 養護教諭はプレイングマネージャーであるべき。情報をキャッチして課題とし、全教職員で共有することができる。
- ・ 他者評価の意味
 - 子どもたちの健康課題を解決するための評価である。
 - 生徒が自分で目標設定し、実行して、評価することが大切である。
- ・ 保健室経営計画がある利点
 - 子どもたちの健康課題をうまく次年度に引き継ぐことができる。
 - 子どもたちの健康課題を解決するための計画である。

○ グループワーク

<テーマ>

「組織活動をめざした具体的方策にするために、保健室経営計画を見直してみよう。」

- ・ グループワークをした内容についてシェアリング

○ 指導助言

- ・ 保健室経営計画を教職員に周知する際に、評価をしてもらうことも一緒に伝えておくと他者評価をいただきやすい。
- ・ 子どもたちが自立していくために、今できることは何かを考えて実践する。

7ま と め

平成27年12月に出された中央教育審議会答申では、今後目指す学校として「チームとしての学校」の在り方の中で、「学校と家庭、地域との連携・協働によって、共に子供の成長を支えていく体制を作ることで、学校や教員が教育活動に重点を置いて取り組むことができるようにすることが重要である。」と記載されている。

このことを受けて、これからの学校保健はより一層組織間連携を図っていかなければならないと考え、昨年度から研究テーマを「組織活動を意識した保健室経営を考える」として研究を重ねている。今年度荊尾玲子氏に御指導をいただき、組織的に保健室経営を行うとはどういうことか、養護教諭として何をしなければならないのか等を考え直す機会となった。

また、荊尾玲子氏は養護教諭であり、教頭・校長を経験された方であることから、学校全体を視野に学校保健を組織的に展開するための養護教諭の役割についての的確に御指導いただき大変参考になった。

研究した内容は、平成29年度に開催される鳥取県学校保健会養護教諭部会研修会の分科会で全県の養護教諭と共有すると共に、学校保健を組織的に展開するための養護教諭の役割について協議を行い、今年度の講師である荊尾玲子氏から再度指導助言をいただきながら、より見識を深める予定である。